

山形国際ドキュメンタリー映画祭 令和元年度事業報告

活動総括

1. 映画祭2019の開催

2019年10月、無事第16回山形国際ドキュメンタリー映画祭を開催することができました。作品募集には130の国の地域から過去最多の2,371本もの応募が寄せられ、映画祭本番では計176本の多種多様な作品を、市内の6館、9スクリーンにて上映しました。期間中の連休に列島を襲った超大型台風19号のため、上映中止・振替となった回も出ましたが、それにもかかわらず総入場者数は前回映画祭2017より微増の22,858人となり、海外の映画業界人やプレス（取材）の方々の来日・来県は過去最多となりました。国内外から多くの参加者を引き寄せた本事業の成功は、山形市、および全国の正・賛助会員の皆様からの全面的なご支援とともに、山形市中央公民館など主要5会場、および近隣の多くの関係店舗・商店街・学校関係の皆様の、準備段階からの多大なご協力、ご協賛企業・団体によるグッズ・広報支援、映写や字幕制作、通訳等の皆様の変わらぬ高い技術、そして参加いただいた市民ボランティアの皆様の、映画祭への一貫した熱意とおもてなしの心なくしては、成立し得ないものでした。加えて、芸術文化振興基金、笹川平和財団、台湾文化部、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本など、各助成・共催団体からのプログラムへのご支援もまた、この規模の映画祭の維持には不可欠なものでした。最新の優れたドキュメンタリー映画を世界中から集め上映し、ゲスト監督や来場者、市民皆が人種や帰属を越え、開かれた上映空間に集い交流し、映画芸術や現在の世界のありよう、そして山形固有の物産・風土を知り、楽しみ、語り合う、山形国際ドキュメンタリー映画祭という唯一無二の場を今年も設けることができましたのは、すべてこれら支えてくださる皆様・諸団体の連携、ご助力の成果であったと考えています。

2. 若い世代に対する映像教育の推進

映画祭開催を軸とした年間を通じた活動の中で、例年にもまして力を入れたのが若年層への映像教育の取り組みです。10月の映画祭では、小学生（英会話学校との共催で英語インタビューチャレンジ企画他）、中学生（ゲスト監督らの山寺ガイド、コンペティション作品団体鑑賞）、そして高校生（「ドキュ山ユース」による監督インタビューや交流企画など）のそれぞれの世代の子どもたちにさまざまな企画で参加・活躍してもらいました。映画祭終了後も、ゲスト監督らが県内の小学校、高校、聾学校を訪問、上映と交流の機会を作ることができました。その他、毎年行なっているこども映画教室や、ドキュ山ユースの高校生たちによる映画批評ワークショップや放課後上映会企画などを通し、市内の多くの子どもたちに、映画の仕組み、映画の見方、描かれた社会問題の理解、映像表現の多様性や豊かさなどについて学ぶ機会を提供できました。地域の学校やコミュニティとも連携した、ユネスコ創造都市やまがたならではのこうした積極的な映像教育活動は、若い世代の国際理解・芸術理解を育む貴重な機会であり、今後もそれぞれ継続していくべき有益な取り組みだと考えます。

3. 市内外の諸団体との連携・ネットワークの拡大

映画祭開催にあたり、例年以上に多くの市内外の団体、企業、店舗にご協力いただきました。映画祭開催前のプレイベントでは、山形美術館や山形市立図書館等との連携企画を行い、また

近隣の保育園や大学、公民館など、さまざまな施設で映画祭2019応援上映会が開催されました。映画祭期間中も、山形交響楽団の開会式での演奏を始め、国内のさまざまな団体とのコラボレーションイベント「〇〇ナイト」やドキュ山マルシェの開催、記念グッズのコラボ企画、フィンランド映画基金との共催サウナ企画や山形大学映像文化研究所との共催上映会など、各会場で話題性の高い企画が数多く立ち、メディアでも期間中頻繁に紹介されました。今回初めてご協力いただいた地元商店街や店舗なども多く、新たな連携により地域経済の活性化にも少なからず貢献できたものと考えます。また映画祭以外でも、6月に山形大学で行われた日本映像学会大会への協力や、11月に蔵王温泉で開催されたアジア出身映画作家3組のアーティスト・イン・レジデンス事業への協力・支援など、映像文化にまつわる活動を通し、国内外でさまざまな団体や作家、企画者らとのネットワーク拡大に努めました。

また、今回の映画祭2019はユネスコ創造都市ネットワークに山形市が加盟して初の映画祭開催となったこともあり、映画祭期間中の「やまがた創造都市国際会議」をはじめとして、国内外からのさまざまな映画関係者、創造都市関係者の方々の交流の場を生み出すことができました。また創造都市事業である「やまがた市民映画学校」企画として、最上義光歴史館前広場での野外プレ上映会や、フォーラム山形との共催での『よあけの焚き火』上映など、山形市および各文化施設と連携を図り、活発な共同企画を行うことができました。こうした活動を通し、本年もユネスコ創造都市やまがたを広く国内外にPRし、創造都市についての理解を深めることに寄与し得たものと考えます。

こうした各地の団体との連携を年々豊かに発展させていくことは、当映画祭の開催基盤の強化とともに、市民に広く開かれた文化事業として地域社会の発展にも大きく寄与するものと考えています。



活動報告

○会議の開催状況について

総会 令和元年5月18日 令和元年度通常総会
理事会 平成31年4月17日 第141回理事会
3月決算、平成30年度事業報告、賛助会員会費変更など
令和元年5月8日 第142回理事会 総会議案書など
令和元年6月25日 第143回理事会
ポスター選考、インターナショナル・コンペティション上映作品、4、5月決算など
令和元年7月17日 第144回理事会 6月決算、アジア千波万波上映作品など
令和元年8月20日 第145回理事会 7月決算など
令和元年9月18日 第146回理事会 8月決算、第一次補正予算など
令和元年11月27日 第147回理事会 9、10月決算、映画祭開催報告など
令和元年12月18日 第148回理事会 11月決算、理事長選任と手続きなど
令和2年1月21日 第149回理事会 12月決算など
令和2年2月13日 第150回理事会 1月決算、第二次補正予算など
令和2年3月23日 第151回理事会 2月決算、第三次補正予算、事務局・理事体制など

◎映画祭事業

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019 の開催

○台風19号への対応

・10月12日 市民会館前の屋外で開催予定であった「ドキュ山マルシェ」を屋内に変更、交流の場「香味庵クラブ」、フィンランド・サウナは中止した。ボランティアには帰宅を促した。また、18時10分以降スタートの上映8プログラムを中止し、スタッフ会議を招集、翌日以降に振替上映を行なった。

・10月13日 やまがたと映画「16ミリフィルム・デジタイズ・ワークショップ」（無料）、同日○
○ナイト「実情：映画業界の男女格差」（前売なし）は登壇者、共催者が来場できないため中止。

・中止や振替情報については、会場でのアナウンスや掲示を行い、SNSやWebサイトで発信した。

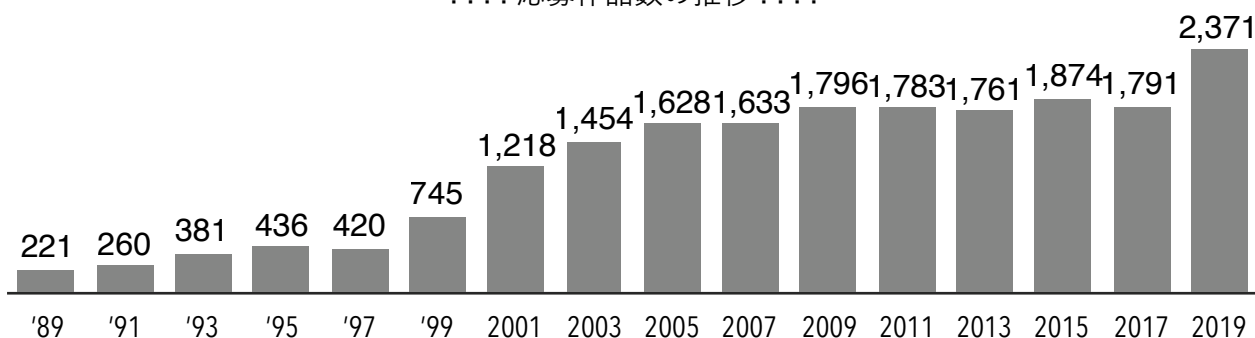
・ゲスト、主催者が来形できずに一部イベントが中止となったり、ゲストや観客の来場や帰路に影響した。

1. 応募作品数：2,371本（130の国と地域から）

インターナショナル・コンペティション 1,428本（123の国と地域から）

アジア千波万波 943本（68の国と地域から）

::::: 応募作品数の推移 :::::



*2001年より、インターナショナル・コンペティションの「フィルム作品」の条件を削除、ビデオ作品も応募可となった。

*2019年、応募作品のオンライン受付開始。

2. 開催期間：2019年10月10日（木）～17日（木）

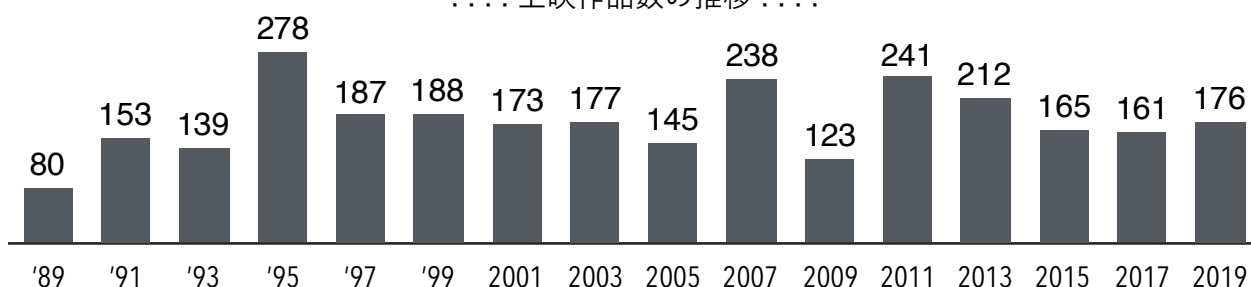
3. 上映会場：6会場、9スクリーン

山形市中央公民館ホール、山形市民会館大ホール、山形市民会館小ホール、フォーラム山形3・5、ソラリス1、山形美術館展示室1・2、山形まなび館

4. 上映作品：176作品

- ・インターナショナル・コンペティション（15作品）
山形市中央公民館ホール、山形市民会館大ホール
- ・アジア千波万波（21作品）フォーラム山形3・5
- ・アジア千波万波特別招待（2作品）フォーラム山形5
- ・AM/NESIA：オセアニアの忘れられた「群島」（23作品）山形市民会館小ホール
- ・リアリティとリアリズム：イラン60s—80s（15作品）ソラリス1
- ・Double Shadows／二重の影2（15作品）山形市民会館小ホール
- ・「現実の創造的劇化」：戦時期日本ドキュメンタリー再考（17作品）山形美術館展示室1
- ・日本プログラム（5作品）ソラリス1
- ・ともにある Cinema with Us（12作品）山形美術館展示室2
- ・やまがたと映画（12作品）山形美術館展示室1、山形まなび館、フォーラム山形3
- ・春の気配、火薬の匂い：インド北東部より（16作品）ソラリス1
- ・特別招待作品（5作品）山形美術館展示室1、ソラリス1
- ・審査員作品（8作品）山形市中央公民館ホール、山形市民会館大ホール、フォーラム山形5
- ・YIDFFネットワーク特別上映（4作品）山形まなび館、山形美術館展示室2
- ・フィンランドサウナ×映画（2作品）ソラリス1
- ・ヤマガタ・ラフカット1（4作品）山形美術館展示室2

::::: 上映作品数の推移 :::::



*上映作品数が200を超えた回は短編が多い。'95「電影七変化」、2007「ドラマティック・サイエンス!」、「8mm映画の存続と未来」、2011「キューバから・が・に・を 見る」「わたしのテレビジョン 青春編」「やまがたと映画」「おやこ・映画とアニメのワンダーランド」ほか、2013「クリス・マルケルの旅と闘い」「やまがたと映画」。

5. 入場者数：22,858人（前回2017：22,089人 前回比103.5%）

- ・開会式 426人
- ・表彰式 470人

[上映]

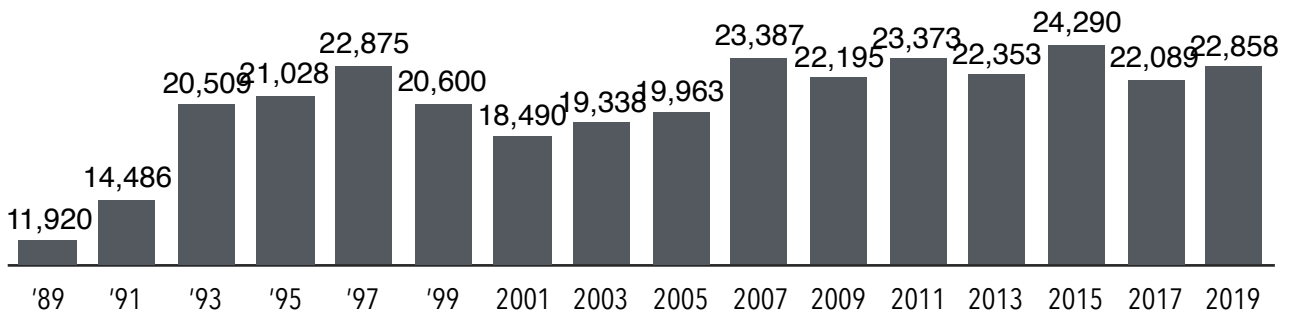
- ・インターナショナル・コンペティション 7,816人
- ・アジア千波万波 4,098人

- ・AM/NESIA (アムネシア) : オセアニアの忘れられた「群島」 664人
- ・リアリティとリアリズム: イラン60s—80s 924人
- ・Double Shadows/二重の影2 1,493人
- ・「現実の創造的劇化」: 戦時期日本ドキュメンタリー再考 492人
- ・日本プログラム 695人
- ・ともにある Cinema with Us 583人
- ・やまがたと映画 474人
- ・春の気配、火薬の匂い: インド北東部より 395人
- ・特別招待作品 273人
- ・審査員作品 697人
- ・YIDFFネットワーク特別上映 165人
- ・フィンランドサウナ×映画 97人
- ・ヤマガタ・ラフカット 49人

[イベント]

- ・ジョナス・メカス フローズン・フィルム・フレームズ ワークショップ 9人
- ・ジョナス・メカス フローズン・フィルム・フレームズ展示 216人
- ・ダンスパフォーマンス「大野一雄について」 70人
- ・大野一雄ループ展示 107人
- ・山形と映画館展示 80人
- ・フィンランドサウナ体験 206人
- ・フィルム・デジタイズ・ブース (ヨコシネD.I.A.) 展示 200人
- ・ドキュ山マルシェ 1,515人
- ・アフター・イベント監督派遣 120人
- ・コラボ・イベント〇〇 (まるまる) ナイト 353人
- ・やまがた創造都市国際会議2019 155人
- ・Creative Café 16人

:::: 入場者数の推移 ::::

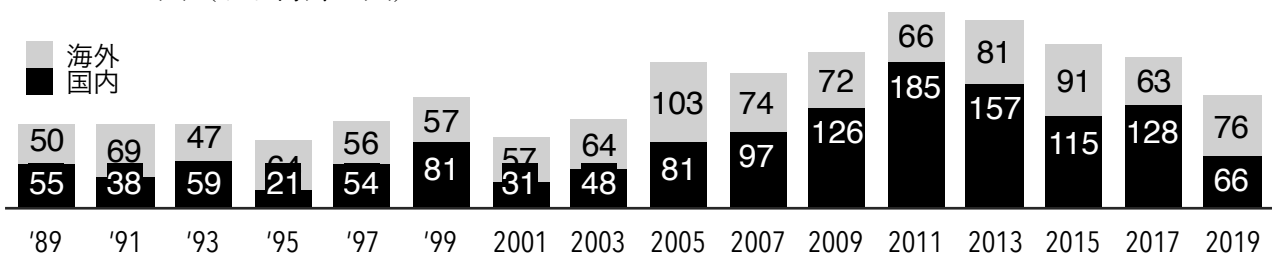


6. ゲスト・プレスの来形者数

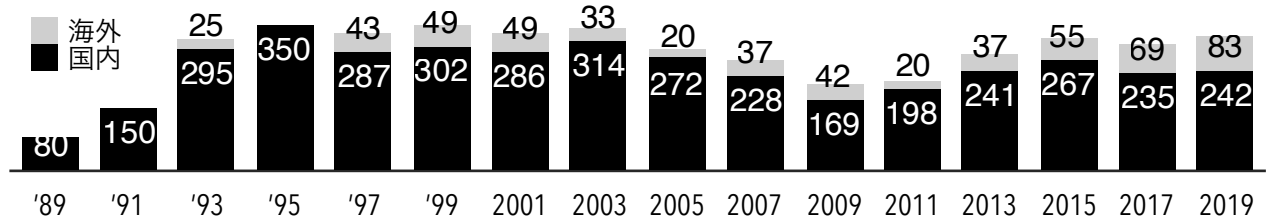
ゲスト 142人 (うち海外76人)

:::: ゲスト数の推移 ::::

プレス 325人 (うち海外83人)



::::: プレス登録者数の推移（'89, '91, '95は国内外内訳データなし）:::::



7. 表彰関係

・インターナショナル・コンペティション

ロバート&フランシス・フラハティ賞（大賞） | 『死霊魂』 監督：王兵

山形市長賞（最優秀賞）

『十字架』 監督：テレサ・アレドンド、カルロス・バスケス・メンデス

優秀賞 | 『ミッドナイト・トラベラー』 監督：ハサン・ファジリ

『これは君の闘争だ』 監督：エリザ・カパイ

審査員特別賞 | 『インディアナ州モンロヴィア』 監督：フレデリック・ワイズマン

・アジア千波万波

小川紳介賞 | 『消された存在、____立ち上る不在』 監督：ガッサーン・ハルワーニ

奨励賞 | 『ハルコ村』 監督：サミ・メルメール、ヒンドウ・ベンシュクロン

『エクソダス』 監督：バフマン・キアロスタミ

・市民賞 | 『死霊魂』 監督：王兵

・日本映画監督協会賞 | 『気高く、我が道を』 監督：アラシュ・エスハギ

8. リーダー・スタッフ、ボランティア

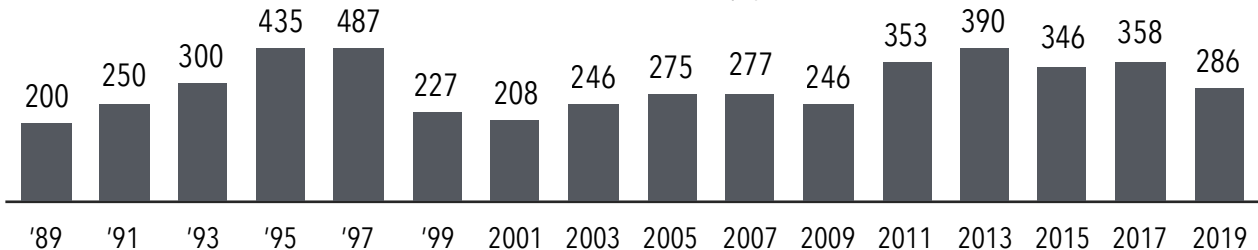
映画祭開催に向けてリーダー・スタッフを雇用した：38人

ボランティア：286人 リーダースタッフとともに活躍し、映画祭を支えた。

- ・会場・市民賞 107名
- ・ゲストサポーター 65名
- ・東京ゲストサポーター 11名
- ・広報 6名
- ・デイリー・ニュース 29名
- ・写真・ビデオ記録 15名
- ・香味庵クラブ 29名
- ・司会進行 12名
- ・同時通訳機操作 15名
- ・パーティー運営 5名
- ・その他 14名

*兼務の場合があるので、各セクションの人数と総数は一致しない

::::: ボランティア数の推移:::::



9. 地域の団体、企業、店舗等の協力

・東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科にポスター（メイン・ヴィジュアル）の学生コンペとデザイン展開を依頼。ポストカード、フリーパス、プログラムチラシ、公式カタログ、会場看板、Webサイト看板、IDカードに展開した。

・交流の場 香味庵クラブ 10月11日—16日（12日は台風のため臨時休業）入場者数 1,556人

- 会場提供、運営：香味庵まるはち、ビューティフル・コミッション、山形青年会議所
- ・コラボレーション・イベント「〇〇（まるまる）ナイト」
- 会場提供：BOTA Coffee、Bruno、SLOW JAM
- ・山形市民会館での「ドキュ山マルシェ」 10月12日—14日
- ：YUKIHIRA coffee、ユルリハナスタジオ・鏡畳店・トガセマコト、カジワラ珈琲、Ride 4 Style、カフェフクダエン、Café 990、(株)丸俊
- ・茶道裏千家淡交会山形支部によるお茶会 10月12日、14日 山形市民会館
- ・ボランティア食券協力店 41店舗 利用枚数 1,046枚
- ・商店街での映画祭ポスターの掲出 150枚以上

10. その他団体との連携企画

- ・コラボレーション・イベント「〇〇（まるまる）ナイト」
- DFI、仲野麻紀、Tokyo Docs、サムワズガーデン、ヨコハマ・フットボール映画祭、ドキュメンタリー・ドリーム・センター、東京ドキュメンタリー映画祭、ワカキコースケ、ハイクロスシネマトグラフィ、渡辺智史、東北大学東北アジア研究センター、MASHING UP（イベントは台風のため中止）
- ・フィンランドサウナ×映画 10月12日—15日 共催：フィンランド映画基金
- ソラリスでの映画上映と、山形市民会館前での特設サウナの体験
- ・ヨコシネD.I.A. フィルムデジタルイズ 10月12日—15日 山形市民会館
- 可搬式のフィルム・デジタル化機器のデモンストレーションを行なった。
- ・小田香展「ミュージズシリーズ —セノーテを描く—」企画：kanabou
- 9月26日—10月20日 とんがりビル
- ・幻灯の映した昭和 —絵本と炭鉱— 主催：JSPS科研費基盤研究 10月12日 山形大学
- ・やまがた創造都市国際会議2019「世界とつながる映画のチカラ」
- 主催：山形市創造都市推進協議会、山形市 10月16日 フォーラム5

11. 若年層参加の取り組み

- ・中学生団体鑑賞 10月11日 市民会館大ホール
- 市内三校（第三、高楯、蔵王第二）の中学生293名と教員34名が国際・コンペティション作品『約束の地で』を合同鑑賞。監督との質疑応答に参加した。
- 協力：山形市教育委員会
- ・高校生チーム「ドキュ山ユース」主催交流会（〇〇ナイト企画）開催 10月11日 BOTA coffee
- ・「ドキュ山ユース」が監督インタビュー（『これは君の闘争だ』エリザ・カパイ監督）を行なった。
- ・県内の高校や小学校、聾学校に監督派遣を行なった。（後出）
- ・「世界の監督に突撃インタビュー」10月13日
- ジェイムズ英会話山形校のサポートにより、子どもたちが英語で監督にインタビューを行った
- ・「山寺ピクニック」10月15日
- 山寺中学校の生徒が、山寺を訪れたゲスト監督らに英語で案内した。

12. チケット販売

- フリーパス、10回券、3回券、1回券を販売した。
- ・ネット・ショップとオンライン決済を導入した。

- ・フリーパスは30周年記念グッズ（後出）付きとした。
- ・フリーパスの前売に関して、販売期間と価格を2段階に設定した。
- ・フリーパスの学生団体割引価格を設定した。
- ・シニア、障害者、子育てランドあ〜べ（託児施設）利用者に対する当日券の割引を行った。
- ・映画祭と同時期に市内で開催される耳科学会と協力関係を築き、参加者に対して当日割引1回券（市民会館大ホール限定）を販売した。

13. 協賛：91件

映画祭開催への協賛金のほか、オープニング・レセプション及びフェアウェル・パーティーの飲食物や食材、物資協賛、チケット、上映素材製作、映写機材、携帯電話、事務機器、グッズ製作、賞品、チケットなどに関して協賛を獲得した。協賛企業については、公式カタログへの広告掲載のほか、上映作品の先付け、公式サイト及びブログ「ドキュ山ライブ」、会場看板、スタッフTシャツへのロゴの掲載を行った。

14. プレイベント、アフターイベントの開催

- ・山形美術館「生誕110周年 野口久光 シネマ・グラフィックス」関連企画
山形市制施行130周年記念事業 YIDFF 2019 プレ・イベント『禁じられた遊び』
4月19日 [金]—25日 [木] 入場者数：270人
本法人阿部宏慈理事（山形大学副学長）、山形美術館 岡部信幸副館長がトークを行なった。
- ・YIDFF 2019 プレ・イベント、山形市立図書館開館40周年記念事業
平和の尊さを考える親子映画上映会『この世界の片隅に』
7月27日 [土] 入場者数：61人
- ・山形市制施行130周年記念事業 YIDFF 2019 プレ・イベント やまがた市民映画学校
野外上映会「見でけらっしゃい！ ドキュメンタリー映画まつり」
8月6日 [火] 最上義光歴史館前広場
参加者数：883人 うち鑑賞者数：456人
「インターナショナル・コンペティション上映作品予告編」『花笠踊考』『やまがた舞子』の
野外上映を行なった。
- ・YIDFF 2019 応援プレ・イベント
6月16日 [日] 『よあけの焚き火』はらっぱ里山保育園
6月21日 [金]—27日 [木] 『描きたい、が止まらない』フォーラム山形
7月12日 [金] 『海—消えたプラスチックの謎』東北公益文科大学
7月28日 [日] 『タイマグラバあちゃん』はらっぱ里山保育園
8月3日 [土] 『縄文にハマる人々』舟形町中央公民館
8月9日 [金]—15日 [木] 『よあけの焚き火』（※やまがた市民映画学校）フォーラム山形
8月2日 [金] 『世界一と言われた映画館』『やまがた舞子』川西町フレンドリープラザ
- ・元町映画館9周年×YIDFF 30周年「山形国際ドキュメンタリー映画祭傑作選」
8月17日 [土]—23日 [金] 元町映画館（神戸市）
本法人より『スクリーンプレイ：時代』『阿仆大（アプダ）』『殊勲十字章』『要塞』『革命の歌』を貸出して上映。元町映画館創立者の堀忠さん、池谷薫監督、本法人正会員・ボランティアの楠瀬かおりさんのトークが行われた。
- ・YIDFF 2019 アフター・イベント 監督派遣
10月16日 山形市立東沢小学校 ヤシヤスウィニー・ラグナンダン監督

- 10月17日 鶴岡まちなかキネマ 章夢奇（ジャン・モンチー）監督
- 10月17日 新庄市 新庄北高校、雪の里情報館 ジジ・ベラルディ監督
- 12月13日 尾花沢市立玉野小学校 佐藤広一監督、リサ・ソマーズさん
- 12月20日 山形県立聾学校 佐藤広一監督

15. 広報宣伝活動

- ・「ドキュヤマ」 5回発行（10、11月除く隔月） 各7,000部
- ・山形国際ドキュメンタリー映画祭2019開催予告チラシ 第一弾 4,000部
- ・山形国際ドキュメンタリー映画祭2019開催予告チラシ
第二弾（インターナショナル・コンペティション作品紹介） 15,000部
- ・ポスター 3,000部
- ・ポストカード 3,000部
- ・プログラムチラシ 50,000部
- ・タイムテーブルチラシ 10,000部
- ・高校生チーム ドキュ山ユースによる「ドキュメモ」 4,500部
上映作品やイベント、グッズ紹介のほか、映画祭を楽しむためのモデルプランも掲載。
- ・ホームページ 訪問者数 265,049人
- ・メールマガジン 登録者数 日本語 2,554人 英語 2,391人
- ・ボランティアメールマガジン 登録者数 771人
- ・公式ブログ ドキュ山ライブ！
- ・SNSの活用（フォロワー数）
フェイスブック(3,685)、インスタグラム(1,038)、ツイッター（8,986）
- ・テレビ・スポット（15秒）4社 80本、ラジオ・スポット（20秒）3社 86本
- ・コミュニティFMラジオ・モンスター「Mon-brun」への出演（月1回）
- ・山交バスへの車体ステッカー掲示（9月18日～10月17日）及び車内でのPR映像（15秒 山形～
仙台線 10月1日～15日）上映
- ・山形新聞への15段広告（インターナショナル・コンペティション作品紹介）
- ・山形市役所駐車場ウィンドウディスプレイ設置
- ・山形駅東口ペDESTリアン・デッキにのぼりを設置
- ・ビッグウィングフェスティバル（11月29日 国際交流プラザ）でPRブースを設置

16. 映画祭30周年記念グッズ企画、製作と販売

- ・30周年記念グッズとして、笹田靖人デザインのアルミボトル、三宅宇太郎デザインのポストカードを製作、フリーパス購入特典とした。
- ・各協賛企業のロゴが入ったスタッフTシャツを製作し、映画祭期間中にリーダー・スタッフ、ボランティア・スタッフが着用した。
- ・笹田靖人、三宅宇太郎、黄木可也子デザインによる、Tシャツ、バッジ、ステッカー、トートバッグ、ネック・ストラップを製作、三宅宇太郎デザインによる30周年記念ポストカードの製作に協力し、販売を開始した。

17. 各種出版物の製作と販売 後出の「出版事業」

◎上映会・ライブラリー事業

1. 市民・県民の様々な年齢層に対する鑑賞機会の創出

- ・金曜上映会 月2回金曜（10月は映画祭開催のため上映なし） 1日2～3プログラム上映
会場：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー（山形国際交流プラザ3F）
年間入場者数：611名 今年度入会109名（総会員数：966名）
4月12日〈ロシア青春クロニクル〉27人
4月26日〈YIDFF 2017 アンコール13：長江の眺め〉35人
5月10日〈ポルトガル：村の音、町のかたち〉28人
5月24日〈YIDFF 2017 アンコール14：自画像〉30人
6月14日〈波瀾の旅路〉20人
6月28日〈YIDFF 2017 アンコール15：航跡〉15人
7月12日〈YIDFF 2017 アンコール16：シリア、カーキ色の記憶〉38人
7月26日〈YIDFF 2017 アンコール17：家と街〉42人
8月9日〈YIDFF 2017 アンコール18：フィリピン、島にて〉16人
8月23日〈あわせて観たい！ 金曜上映会+YIDFF 2019：1〉30人
9月13日〈あわせて観たい！ 金曜上映会+YIDFF2019：2〉26人
11月15日〈小川プロダクションと山形〉10人
11月22日〈山形ドキュメンタリー道場 2019〉35人
12月13日〈香港、台湾、2014〉9人
12月20日〈イランを見る〉26人
1月10日〈パレスティナ：我々のものではない世界〉23人
1月24日〈閉ざされた時間〉38人
2月14日〈YIDFF 2019 アンコール1：若者たち〉27人
2月28日〈いのちの神秘、ミクロの宇宙：樋口源一郎〉52人
3月13日〈塵からオーロラまで〉40人
3月27日〈YIDFF 2019 アンコール2：インドを巡る〉44人
- ・山形大学小白川図書館上映会「そうだ、台湾映画を見よう」
7月19日 [金] 18:30 『酒祭の男たち』 入場者数：17人
- ・YIDFF 2019 監督派遣（前出）

2. 青少年に対する映像教育

- ・山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー 子どもの映画教室（後出）
- ・山形市西部公民館 映画監督に挑戦！ パラパラアニメづくり（講師派遣）
6月8日 [土] 参加者9名
- ・職場体験受け入れ 山形市立第三中学校 5月13日—15日
- ・インターンシップ学生受け入れ 東北公益文科大学
- ・高校生チーム「ドキュ山ユース」のサポート
映画批評ワークショップ 8月4日 霞城セントラル高度情報会議室
放課後上映会 6月5日 山形南高校
2月12日 山形西高校
- ・YIDFF 2019 監督派遣（前出）の中で、来形監督を以下の学校に派遣
山形市立東沢小学校、新庄北高校、尾花沢市立玉野小学校、山形県立聾学校

◎フィルムライブラリー活用・作品貸出事業

1. ビデオブースにおける所蔵作品の無料鑑賞サービス 利用者数： 97 人

2. 作品貸出リスト普及と貸出推進

- ・貸出件数：16件 23作品 貸出料総計：759,000円（正会員割引2件、複数貸出割引1件）
貸出先：山形（山形市、酒田市、川西町）、北海道、秋田、東京、京都、大阪、兵庫。
映画祭、大学、学会、上映施設、自主上映会。
- ・非商業上映権を有しているドキュメンタリー映画の貸出や上映などによる収益の半分を製作者に還元。19件
- ・映画祭2019の上映作品のうち、インターナショナル・コンペティション9作品、アジア千波万波16作品、「ともにある Cinema with Us」上映の台湾4作品の権利者と合意書を取り交わした。
- ・新規作品を加えた「作品貸出リスト」を製作して配布を開始した。

3. 応募作品の整理

デジタルデータ作品（オンライン応募）、DVD作品など種類ごとに随時整理を行った。

1111

4. 所蔵作品に基づく研究活動とサポート

山形大学人文社会科学部にて、2019年度前期に「ドキュメンタリー映画と現代史」という課題演習授業が開講された（担当教員：山崎彰教授）。内容は、山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーに収蔵された作品を視聴しながら、映画と現代史の関連についてグループ講義し、学習の成果を口頭及び小論文で発表することを目的としたものだった。テーマはヨーロッパ現代史（ナチスとホロコースト、社会主義と冷戦時代、移民問題）、中東現代史（パレスチナとイスラエル、イラク戦争）の2つとして、ライブラリー収蔵の対象作品196本から受講生が任意に選択した作品をライブラリービデオブースにて視聴、ライブラリー休憩スペースにてグループディスカッションを行なった。履修生は9名。授業全体での作品鑑賞の機会として、山形大学附属小白川図書館シアターにて4月23日『ロツツゲッター』、5月14日『我々のものではない世界』の上映を行なった。最終的に口頭による個人報告と小論文の提出がなされた。山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーにて収蔵する作品の視聴を中核とした大学機関による公式の授業ははじめての試みであった。

5. その他

- ・映画祭2019開催と同時にインドのメガラヤ州にあるセント・アンソニー・カレッジに設立された、インド北東部視聴覚アーカイブ及び笹川平和財団による視察を受け入れ、情報交換を行った。
- ・山形大学附属博物館特別展示「創造都市やまがた誕生までの120年」（5月20日～6月21日）への資料貸し出し、協力を行った。
- ・ライブラリー施設見学会 山形市の施設見学会を受け入れた。

◎出版事業

- ・映画祭の上映作品を網羅した公式カタログ、論考なども掲載した各特集のカタログ4冊（AM/NESIA、イラン60s-80s、Double Shadows／二重の影2、現実の創造的劇化）を製作、販売を開始した。
- ・映画祭日刊紙「デイリー・ニュース」を発行、無料配布した。
- ・映画祭ガイド「SPUTNIK」を発行、無料配布を開始した。

- ・映画祭2019開催データ、記録写真を掲載した「ヴィジュアル・ブックレット」800部を製作し、無料配布を開始した。
- ・映画情報サイト「シネマトゥデイ」での中山治美さんの連載「山形国際ドキュメンタリー映画祭30年の軌跡」の冊子を500部製作した（非売品）。広報に使用。

◎ネットワーク構築事業

- ・応援プレ・イベントの開催
- ・「全国コミュニティシネマ会議2019 in 埼玉」への参加
- ・日本映像学会第45回大会（山形大学主催：6月1-2日）の実行委員会への参加、運営協力。期間中作品貸出リストの配布も行なった。
- ・ドキュメンタリー・ドリームセンター主催のアーティスト・イン・レジデンス事業「山形ドキュメンタリー道場2019」への協力（蔵王温泉）

◎「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」事業

平成26年（2014年）11月開設の東日本大震災に関わる記録映画を収集・保存する「311ドキュメンタリーフィルムアーカイブ」には、2020年3月末現在で112作品が登録されている。映画祭2019「ともにある Cinema with Us」で上映された日本作品のうち、3作品が新たに登録された。今後調査を続け、未登録の関連作品について引き続き権利者にアプローチを行なう。

◎「ユネスコ創造都市やまがた」推進事業

やまがた市民映画学校の開催

- ・野外上映会「見でけらっしゃい！ ドキュメンタリー映画まつり」 8月6日 [火]
最上義光記念館前広場
- ・『よあけの焚き火』出演者+監督トーク付き上映会
8月9日 [金]—15日 [木] フォーラム山形

子ども映画教室の開催

- ・第10回 山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー 子どもの映画教室
フィルムライブラリー探検と、くるくるгентウキ（アニメーション・プロジェクター）づくりを行った。
3月20日 [金・祝] 申込者17名うち参加者11名（年少～小6）

◎映像（撮影・上映）素材のデジタル化と保存に関する研究活動への協力

東北芸術工科大学が採択を受けている日本学術振興会による科学研究費助成事業「小規模映画における保存と修復及びアーカイブに関する研究」に対し、以下の協力・支援を行なった。

- ・映画祭2019でのシンポジウム「イメージの時空間 映像アーカイブの多角的展開に向けて2」開催
10月12日 山形まなび館
- ・映画祭2019でのシンポジウム「新たな創造都市拠点設立へ向けて」開催
10月13日 山形まなび館
- ・映画祭2019での「16ミリフィルム・デジタルイズ・ワークショップ」 10月13日
※台風により講師が来場できず中止
- ・本研究でデジタルイズした長野千秋監督「O氏シリーズ」3作品の映画祭2019でのお披露目上映
10月15-16日 山形まなび館

- ダンスパフォーマンス『大野一雄について』開催 10月14日 山形まなび館
- ・事業報告書作成への協力

◎映像文化推進事業

- ・映写業務 12件 1,381,681 円
- ・作品普及 3件 979,845 円
- ・機材修理 3件 108,000 円
- ・その他 4件 180,500 円

◎フィルムライブラリー受託事業

山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーの管理業務 年間利用者数： 1,021人

◎組織運営・管理部門

- ・正会員・賛助会員の拡大
会員数（年度末時点） 正会員86 個人55人 法人31団体
賛助会員84 個人72人 法人12団体
- ・寄付募集活動
寄付総額 17件 1,790,839円